

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MPM
2025
VOL.
20

むさしのパークライフマガジン

YOUR PARK LIFE : Park Life × Art

FOCUS : 公園が美術館になると、アートはもっと自由になる！
公園は地域カルチャーの発信地！

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。



Park Life × Art

— 公園とアートのステキな関係 —

公園とアートって相性がいいって知っていました？

「アートは美術館で見るものじゃないの？」

って思っていたら大間違い。

海外では、いたるところにアートがあって、

個性豊かな表現をいつでも楽しめる公園が数多くあります。

美術館で見るアートもいいけれど、

公園だったら、体験しながら五感をフルに使って、

みんなでわいわい鑑賞できます。

犬と散歩をしながらだって OK！

そんなアート体験が日常の中にあったら、

インスピレーションがビビッと浮かんで、新しいアイデアが生まれる！

・・・なんてこともあるかも？

森の息吹を受け取って、
アートはさらに
みずみずしい輝きを放つ。

公園の森が美術館になっちゃった！

武蔵国分寺公園では、近隣のアーティストが森の中に作品を展示するイベント「てのわ 森の中美術館」を定期的で開催しています。会場となる「野鳥の森」は、国分寺崖線（はげ）の雑木林を野鳥や地域の生態系を守るために大切に保全している場所。

アーティストたちは、この森が持つ豊かな魅力を受け取り、それぞれの作品に自然との調和を取り入れた展示を行います。

森の中に一歩足を踏み入れると、小鳥のさえずりや風の音、こもれびの光と影、草木の放つ香りなどとともに、よりドラマティックなアート鑑賞が体験できます。

久保萌菜さん

「KOMOREBI 9d2t4p(287f3m)3」

Q1
アーティスト
クイズ

野鳥の森を歩いてこもれびの形を採取しました。
何種類採取したでしょう？

① 143 ② 287 ③ 574

※ 約9日かけていろいろな木の下でこもれびの影を探し、採取しました。同じ木の下でも時間、日差しの強さでいろいろな形が採取できました。

いつもの公園が
みんなのアーティストゴコロを
刺激する場所になる。

子ども 大人も楽しそう！

公園にアートがあると、自然と人が集まります。
「これは誰かに似てるね」
「あのオブジェは何にみえる？」
「この作品はどうしてこんなタイトルなんだろう？」
何気なく通り過ぎている散歩道が、
急ににぎやかになって、ちゃんと見ると、
「ここにこんな立派な木があったんだ」とか
「こもれびってこんなにキラキラしてるんだ」とか
いつもの公園に新しい発見があります。

日沼智之さん「いふ」

この形は何ですか？

① 熊(くま) ② 虎(とら) ③ 龍(りゅう)

Q2
アーティスト
クイズ

公園が美術館になると、アートはもっと自由になる！



「てのわ 森の中美術館」を開催した「てのわ部」スタッフと参加アーティストの座談会



Q3
アーティスト
クイズ

この作品の色はある行為でつけられていますが、どれでしょう？
① 絵の具を塗る ② 墨を塗る ③ 燃やす

森田太初さん「森の王」

だれもが気軽にアートに触れられるのは、公園だからこそ

「てのわ市」は、人の手から生み出される作品や食べ物、音楽などを通して、地域の魅力を発信するイベントとして2018年と2019年に武蔵国分寺公園で開催されています。その中で開催していた「てのわ 森の中美術館」は、「てのわ市」から独立し、2021年から毎年10月に開催されています。2024年で4回目を迎え、今回は17名のアーティストによる20作品が展示されました。このイベントの企画・運営を行う「てのわ部」の山内史生さんは、次のように語ります。「武蔵国分寺公園のこもれび広場や野鳥の森の環境がとても好きで、武蔵野・多摩地区に馴染みのある作家さんの作品を展示できたらと思い、企画しました。作家さんにはまず森を見学してもらい、地形や植生を理解した上で展示場所や作品を考えてもらいます。そのプロセス自体が、作家さんにとっても新鮮な体験となり、創作のヒントにもなっているようです」



てのわ部 山内史生さん



荻生剛さん「森のモザイク」



大中原由紀さん「精霊のダンス」



永林香穂さん「さぼってん」

NEWS

「あったらいいな」を
みんなでつくる
公園プロジェクト

公園とてのわ部がコラボするイベントが今春開催！

第3回 てのわ市

人の手から紡ぎ出される
「美しい作品」「素敵な音」「美味しい食べ物」

【開催日時】2025年4月20日(日) 10:30～15:30
＜雨天順延：4月27日(日)＞

【場所】都立武蔵国分寺公園こもれび広場
【主催】武蔵野の公園パートナーズ 【企画・運営】てのわ部
【後援】国分寺市・国分寺市教育委員会
【お問合せ】都立武蔵国分寺公園サービスセンター TEL 042-323-8123



<てのわ部 HP>



公園は地域カルチャーの発信地

森とアートについて解説をする齋田パークレンジャー

はっとりこうへいさん「build with color」

中田芳聖(Nakada Hosei)さん「脈うっている。。。」

翁素曼さん「オクさん」

公園にアートがあると、会話が生まれ、コミュニティが広がります。

「てのわ 森の中美術館」のアート展示は、都立武蔵国分寺公園の「野鳥の森」で行われました。この森は、国分寺崖線の雑木林を活かした生きもののための森です。枯れ木をあえて残すことで、昆虫や爬虫類、野鳥が住みやすい環境を作っています。そんな静かな森にアートを展示する目的は、地域の作家さんの作品を楽しんでもらうことはもちろん、公園や森をもっと身近に感じてもらうことにあります。

例えば、立ち枯れた木がアート作品として表現されることで、新たな生命力を感じたり、そこに住む虫や鳥の暮らしを想像したりできます。また、こもればの光と影の美しさに気づきかけにもなるかもしれません。こうしてアートを通じて森を見ることで、新しい視点やイメージが広がります。

さらに、森の楽しみ方は無限にあることにも気づくでしょう。たとえば、クモの巣についた朝露の輝き、虫に食べられた葉っぱのユニークな形、虹色に輝くタマムシ。こうした自然の造形は、展示作品がなくても、私たちが普段の森で偶然出会うことができる「自然のアート」なのです。



クモの巣にかかった朝露



なにに見えるかな～？

思わぬところでアートに出会うこともできます



虹色に光るヤマトタマムシ

公園 × アートは海外でもトレンド

実は、公園とアートを結びつける動きは、アメリカやヨーロッパではすでにトレンドになっています。アートを使って社会問題を提起したり、地域の人々の交流を促したりするなど、文化的な活動の重要な要素として活用されています。

私たちが、公園や森の楽しみ方をどんどん発見し、みなさんの暮らしがさらに創造的で豊かになることを願っています。



ニューヨークのハイラインは、廃線となった線路が公園として生まれ変わり、多くのアート作品が常時展示される人気のスポットとなっています



MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

vol.20 anniversary

「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」は、武蔵野の公園の魅力や楽しみ方を知ってもらおうと2014年にスタート。10年のあゆみを経て今号で20号となりました。たくさんの「Park Life×○○」をお届けしてきましたが、公園の楽しみ方はまだまだいっぱいあります。みなさんも新しい楽しみ方を見つけたら、ぜひ教えてください！



- 特集：
- VOL.1 公園をめぐる10のこと
 - VOL.2 Park Life × Voice
 - VOL.3 Park Life × 絵本
 - VOL.4 Park Life × カラダ
 - VOL.5 Park Life × はけ
 - VOL.6 Park Life × つくる あそび
 - VOL.7 Park Life × 生物多様性
 - VOL.8 Park Life × むかし
 - VOL.9 Park Life × 水
 - VOL.10 Park Life × 本
 - VOL.11 Park Life × debut
 - VOL.12 Park Life × 木
 - VOL.13 Park Life × 日常
 - VOL.14 Park Life × スポーツ
 - VOL.15 Park Life × そなえ
 - VOL.16 Park Life × ブランチ
 - VOL.17 Park Life × きのこ
 - VOL.18 Park Life × 野鳥
 - VOL.19 Park Life × おしごと



都立武蔵野公園 開園60周年アニバーサリープロジェクト

都立武蔵野公園が2024年8月1日で開園60周年を迎えました。
苗圃を持ち、桜や紅葉など武蔵野の雑木林の美しさが楽しめる公園です。
野川沿いの原っぱにある築山は「くじら山」と呼ばれ、そこからの国分寺崖線の眺望とともに人気のスポットです。

60周年記念花壇を
一般参加者60組で
つくりました。



武蔵野公園の
見どころをデザインした
スタンプを制作。
サービスセンターで
押印できます。

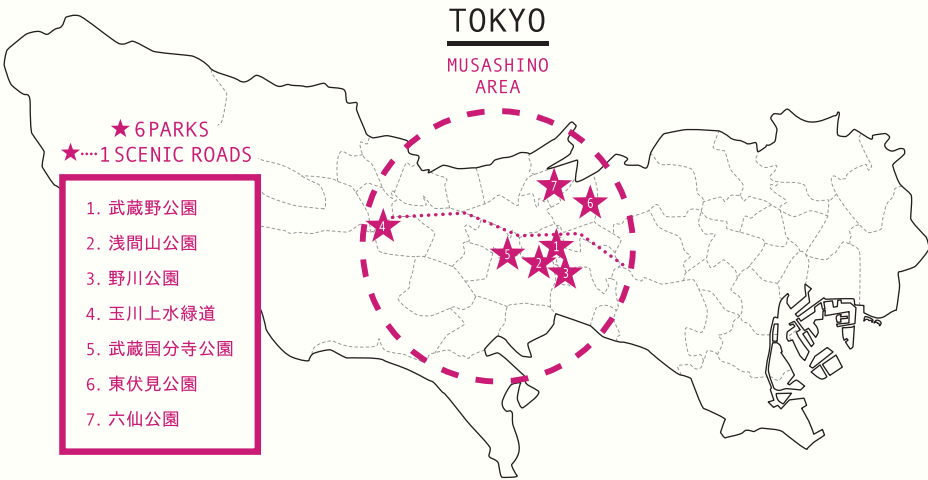


ABOUT

むさしのの都立公園

国分寺崖線や玉川上水など、水とみどり豊かな「武蔵野エリア」にある7つの都立公園です。
指定管理者「武蔵野の公園パートナーズ」は「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめています。

武蔵野の公園パートナーズ構成団体：
西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズノスポーツサービス(株)・(一社)防災教育普及協会



発行：武蔵野の公園パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：2025年3月20日

写真：武蔵野の公園パートナーズ / 井上 茂 P4～13上段 / NPO法人NPO birth P12下段、P13右中・右下 / 名黒清佳 P13左下

デザイン：川上明子

文：鈴木佳子(はけの道編集室)

編集・製作：武蔵野の公園パートナーズ / はけの道編集室(合同会社ニーヨリー)

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真／都立野川公園(撮影：樋川員子)

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINEのバックナンバーは、むさしのの都立公園のHPで見ることができます。
<http://musashinoparks.com/magazine/>



MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MUSASHINO PARKS PARTNERS

<http://musashinoparks.com>